

週間展望・回顧(豪ドル、南ア・ランド)

October 15, 2021

豪ドル・ZAR、コモディティに連れるか

- ◆豪ドル・ZAR、鉄鉱石価格やエネルギー価格の動きが市場動向を決めるか
- ◆豪ドル、中国 GDP やロウ豪準備銀行 (RBA) 総裁の講演に要注目
- ◆ZAR、短期的には底堅いが中長期は不安要素多数

予想レンジ

豪ドル円 82.00-87.00 円

南ア・ランド円 7.50-8.00 円

10月18日週の展望

豪ドルは堅調か。来週も鉄鉱石・石炭などのコモディティやエネルギー価格の動向が豪ドルの動きを左右しそうだ。豪州は鉱山資源が豊富であり、ここ最近ではコモディティ（特に鉄鉱石）の動きに豪ドルが連れている。最近の鉄鉱石価格の値動きは、アジア時間ではシンガポール取引所 (SGX) で一日約 10%動くこともあり非常にボラタイルだ。鉄鉱石価格が堅調に推移すれば来週も豪ドルの上昇が期待できる。また、原油価格高騰で石炭需要の高まりも豪ドルに影響を与えている。特に中国で年間の国内石炭供給量の約 30%を生産していた山西省 682 の採炭のうち、約 60 が洪水のため閉鎖されたことで、石炭資源を多く抱える豪州の注目度が増している。8月の豪州からの石炭の輸出が 12.1%上昇しているように、更に需要が高まれば豪ドルの支えになりそうだ。

もっとも、短期的には堅調なコモディティ価格が豪ドルの支えとなっているが、豪州経済に対する不安も残っている。今週、フライデンバーグ豪財務相は、経済回復と消費回復には自信を示したものの、7-9月期の国内総生産 (GDP) は「ロックダウンの影響で大幅に縮小するだろう」と発言した。また、今週発表された豪雇用統計の労働参加率が更に低下するなど不安要素もある。なお、来週は豪州からは市場を動意づける経済指標の発表はないが、19日に豪準備銀行 (RBA) が議事要旨を公表し、ロウ RBA 総裁が 22日に講演を行う予定。また、18日に中国が GDP を発表することや、中国恒大集団の動向にも引き続き注目したい。

南アフリカ・ランド (ZAR) は短期的には底堅いか。豪ドル同様に資源国通貨の ZAR は、コモディティ価格の上昇が支えとなり、短期的には底堅さを維持出来るかに注目している。ただし、中長期的にはネガティブ要素も多い。各国でエネルギー不足が深刻になっているが、南アも国営電力会社・エスコムが先週から負荷制限を繰り返している。施設の老朽化など構造的な問題があり、短期的に電力が回復できるような状況ではない。また、今週発表された 8月の小売売上高が 7月に続き前年比でマイナスとなった。7月は暴動の影響でマイナスとなったが、8月の落ち込みは南ア経済の深刻さを示している。原油高騰でインフレ懸念が囁かれる中で、小売りの落ち込みはスタグフレーションの道を辿る可能性を高める。なお、来週は 20日に発表される 9月消費者物価指数 (CPI) に注目。再び南ア準備銀行 (SARB) の目標中心値 4.5%を上回る可能性もありそうだ。

10月11日週の回顧

豪ドルは堅調に推移した。各国でのエネルギー不足もあり石炭価格や、鉄鉱石などの上昇で、資源が豊富な豪ドル買いが進んだ。対ドルでは 9月上旬以来となる 0.74 ドル台、対円では 7月上旬以来となる 84 円台まで上値を広げた。なお、8月の豪雇用統計は、失業率は前月から悪化した。市場予想よりも強い数字だった。新規雇用者数はほぼ市場予想に沿った結果だったが、常勤雇用者数が増加した。ZAR も底堅い動きだった。コモディティ価格の上値が ZAR を支え、対ドル対円ともにじり高となった。(了)